

新年明けまして



新年明けましておめでとうございます。町民の皆様方には、平成27年新春を健やかに迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

私は、山都町長に就任以来、自ら掲げた「町民の皆さんとの対話によるまちづくり」を一貫した基本姿勢として、一昨年の12月から自治振興区単位で「やまトーク」（みんなの座談会）を開催してまいりました。

その「やまトーク」では皆様方より貴重な意見を聞くことができ、本年度の当初予算編成に反映することができています。本年度の当初予算の柱は、「農林振興」、「観光振興」、「防災・まちづくり」であります。この町の基幹産業は間違いなく農林業です。農林業の振興こそが、商工業の振興につながり、ひいては後継者となる青年層の定住が進み、町の人口をこれ以上減らさないことにつながると確信します。「やまト

ク」において数多くの地域で提起された深刻な鳥獣被害の対策として、イノシシ・シカの1頭当たりの捕獲の助成単価を引上げるなど、有効と考えられる対策を講じています。

また、私が最も進めたいと考える集落営農については、農地を守り、ひいては集落を守るために、集落でいかに取り組んでいけばいいか。農業機械の共同利用、営農の組織化などを含め、私は集落で地域の農業の将来を話し合っていたと、そのプロセスが何より大切で、必要だと考えます。県のモデル事業を、実施すると共に、町単独の支援として、集落営農を目指す集落に対し、組織の立上げに向けた話し合いや視察研修等に必要経費を定額補助しています。

観光は、食事、移動、物産販売、宿泊を伴い、効果が多くの業種に行きわたる、すそ野の広い産業です。自然が豊かな山都町で、私が就任以来考えているのが、湿性タイプのブナ林としては日本最大の規模を有する九州脊梁山地を活用し、トレッキングなど宿泊を伴う滞在型の観光を目指すことです。滞在型観光プランの開発を進めるとともに、登山や自然体験に関心のある顧客層へ、山都町の売込みをしてまいります。自然災害への対応として「防災・まちづくり」は重要な柱です。山都町をさらに住

みやすい環境にして、誰もが安心して住み続けられるまちづくりを推進します。防災関係では、災害用備品の購入を進めるとともに、消防団員が減少する中で、「やまトーク」でも多くの地区で話題となった自主防災組織について、県の補助金に上乗せした設立支援を行ってまいります。

今後とも住民の皆さんの御意見を伺い、その声に最大限寄り添って、限られた予算の中で優先順位をつけながら、町政を進めたい、そのために私は「やまトーク」を開催しているところです。この町をよくするために何をやらなければならぬか、ぼかすことなく、焦点を決めて取り組めます。昨年暮れに待望の新庁舎が完成しました。1月5日から新しい庁舎での業務を開始します。これまで分散した庁舎で、町民の皆様には不便をかけてまいりましたが、新庁舎完成を契機として、さらに住民サービスの向上に職員一同努力してまいります。と思います。

最後になりましたが、皆様の一層のお力添えを頂きますようお願いいたしますと共に、皆様のご多幸とご健康をお祈り申し上げます。年頭にあたってのご挨拶といたします。

山都町長 工藤 秀一



新年あけましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、新たな気持ちで新年を迎えられ、心からお喜び申し上げます。

さて、今年は、合併して10年の節目を迎えます。昨年末には、念願でありました役場新庁舎が完成いたしました。新庁舎は木材をふんだんに活用した本町に相応しい建物となっています。町民の皆様には、長い間大変なご不便をおかけしましたが、これからは、役場の機能を十分發揮して、これからの町づくりの拠点となることを期待しています。いよいよ1月5日から、新庁舎における業務が始まります。職員の皆様も新たな気持ちを持って、町民の福祉増進

のため、精一杯頑張って頂きたいと思っております。

昨年末には、アベノミクス効果を問うということで、衆議院議員総選挙が行われました。私達国民のすみずみまでアベノミクス効果が浸透したかは正直実感がないといったところですが、何より国民の生活が豊かになるような政治を願うところです。過疎が深刻な本町において、地方創生の光が十分に当てられ、農林業、商工業の振興が図られるよう議会も頑張つて参ります。ただいま建設中の九州中央自動車道においては、昨年12月に嘉島ジャンクションから、小池高山インターチェンジ間が開通しました。現在、北中島インターチェンジまでの平成三十年開通を目指し、急ピッチで事業が進められています。その数年後には、矢部インターまでが開通する見通しですが、さらに、蘇陽、高千穂間が事業開始になるように、今年もその運動を力強く展開して参ります。この高速道路には、災害時の緊急道路として、医療に伴う命の道として、周遊観光の実現、広域物流の効率化

といった役割が期待されています。高速道路の開通を見据えた町の活性化策も急がなければなりません。

昨年は、2月の大雪に始まり、8月の広島土砂災害、9月の御嶽山の噴火等、自然災害が記憶に残る年でありました。年末には阿蘇山が噴火して、本町でも深刻な被害が発生しています。噴火の長期化による更なる被害の拡大が心配されるところです。今年も、大きな災害等がないことを願います。町民の皆様のご健康とご多幸を祈り、年頭のあいさつといたします。

山都町議会議長

中村 一喜男

おめでとらうございます